

より身近になった「ハス」を 楽しむ蓮フェスタ開催！ NPO秋田千秋はすの会

蓮の魅力を知ってもらうために開催している「蓮フェスタ」が、今年度整備した遊歩道やボケットパークなどを含む千秋公園周辺で開催されました。

今年で14回目を迎える「蓮フェスタ」は、市民活動団体「NPO秋田千秋はすの会」が主催する、中心市街地の「芸術文化ゾーン」で行われるイベントです。近年は秋田市地域づくり交付金を活用し開催されていることもあり、密着取材しました。

フェスタでは、ハスの葉を「さかずき」にして飲み物を飲む「象鼻杯^{ぞうびはい}」体験やハス茶の試飲会、ハスの茎を使ったシャボン玉遊びコーナーなど、ハスを使った様々な体験コーナーが設けられ、親子づれを含む幅広い年代の方々が参加し楽しむ姿が見られました。象鼻杯を体験した方は「ハスの花を見に来て、このイベントにたまたま参加したが、初めて象鼻杯を体験してみても楽しかった。来て良かった。」と話していました。



象鼻杯体験の様子

イベントを開催している会員の方は「年々参加者が増えてきているように感じる。長く活動が続けてきたから人の輪も広がってきているのだと思いますが、秋田市のにぎわい創出につながられるように、今後も活動していきたい。」と話していました。また、新たに整備された遊歩道について、はすの会事務局長の仲山さんは「遊歩道が完成したことで、今まで以上にハスを身近に感じる事が出来るようになった。五感で楽しみながらハスの魅力を知ってもらい、秋田市の活性化につなげていきたい。」と話していました。



お堀に完成した遊歩道

秋田市の夏の風物詩であり、魅力ある地域の資源である「千秋公園のお堀のハス」を、その歴史や文化も含めて多くの人に知ってもらい、シビックプライドの醸成を図ることで、秋田市の中心市街地の「にぎわいづくり」と「活性化」に取り組み、はすの会の活動を今後も注目していきたいと思っています。

(市民活動支援アドバイザー 出雲淑恵)